



トピックス

日本蜘蛛学会第 57 回 大会印象記

岩永 柊

はじめに

皆さんはじめまして。日本蜘蛛学会第 57 回大会の印象記を担当させていただくことになりました。九州大学の岩永柊と申します。印象記というものを書くのが初めてで、拙い文章ではありますが、しばしお付き合いいただけますと幸いです。

1 日目

今年度の学会大会は、東京環境工科専門学校で 2 日間にわたって開催されました。昨年度は台風が重なってオンライン主体となってしまったため、多くの学会員が対面で集まるのは 2 年振りとなります。緊張と楽しみを感じながら会場に到着すると、講演要旨集とともに、東京蜘蛛談話会通信に掲載されている「ゆるクモ」でおなじみの天木さんのクリアファイルが配られました。大会限定仕様で、精巧かつキュートに仕上がったデザインに心癒されました。さて、開会の挨拶が終わると、学生による一般講演が始まりました。1 題目は佐々木さんに

よる分類学的研究で、属の定義の曖昧さの問題に対し遺伝情報からの解決を試みたものでした。私もハエトリグモ科が好きなのですが、属間の関係には詳しくなかったため大変勉強になりました。続いて私岩永の研究で、ヨダンハエトリの求愛行動に関わる色彩多型の分析について発表を行いました。初めての発表で緊張していましたが、発表後多くの方から面白かったというお言葉をいただき、研究意欲がより一層高まりました。中川さんのお話では、クモゲノム編集技術の最先端について知ることができました。また、未だ不明点の多いクモの脱皮ホルモンを研究する高橋さんの発表では、研究分野が近い中川さんが積極的にアドバイスをしており、若手研究者の間での活発な交流に嬉しく思いました。長野県でワスレナグモの生態解明に取り組む土屋さん&井上さんの発表では、高校生ならではのフレッシュな実験手法と大学生でも苦戦する分析手法に挑んでおり、多くの先生方の関心を集めていました。高校生の段階で、修学旅行帰りという状況にもかかわらず立派に発表をやり遂げる姿は大変頼もしく、今後のさらなる活躍が期待されます。

学生の発表が終わると、次は先生方による一般講演です。谷川さんによる横向きの網を作る謎のジグモのお話には非常に驚かされました。林内の篩捕りでも採集されるみたいですが、これはぜひ横向きの管状住居で発見したいもの



参加者集合写真

です。奥村さんによるヤマヤチグモのお話では、生殖器にも変異が生じるグループの分類の難しさを感じました。標高によって形態・分子ともに違いが出る広域分布種の話も興味深かったです。山崎さんのハエトリグモの系統分類のお話は、ジャバラ系不明種が九州大学で得られていることもあり、今後の進展が非常に気になります。井原さんのナミハグモの最近記載された新属についてのお話では、色々な特徴が挙げられていましたが、地表に網を張るという生態が特に衝撃的でした。

ポスター発表では、クモのみならず、カニムシやザトウムシを題材とした、分類、生態、応用的研究など、幅広い研究がされていました。どのポスターの前もいつも多くの人々が居て、活発な議論が行われていました。11題の発表すべてを聴いて回るには時間が足りず、非常に悔やまれます。

シンポジウムでは、「日本の島嶼における生物研究の魅力と挑戦」というテーマで、3題の講演がありました。まず、長谷川さんのお話は、伊豆諸島でシマヘビとオカダトカゲの個体群動態を40年もの長期間追跡調査されたという

内容でした。教科書で習うロトカ・ヴォルテラの競争式を独自の材料で実証しただけでなく、被食者が捕食者の模様を学習して逃げるために捕食者の模様の出現頻度が一定周期で変動するという現象を明らかにした点が特に興味深かったです。続いて岸本さんのお話は、小笠原諸島における昆虫相の面白さと、それが侵略的外来種によって壊されているという恐ろしい現状の話でした。生物の進化の過程を見ることができる小笠原諸島において、持ち込まれた外来種であるグリーンアノールやヒモムシがいかに猛威を振るっているか、どのような対策が編み出されてきたのかという話は非常に勉強になりました。最後に、鈴木さんのお話は小笠原諸島のクモ相について、過去の研究から未来の展望まで分かりやすく解説したものでした。どのクモの写真も普段見ることのないものばかりで、小笠原行きたい欲が高まりました。また、過去のデータと新規データを多角的に分析して多くの知見を得ている点が特に素晴らしく、固有種が地表より上に偏っていること、ヒモムシが餌を食べ尽くす事によって固有種が脅かされていることなど、大変興味深いこ

とだらけでした。総合討論では、皆さん小笠原のヒモムシの対策について関心が深かったようで、非常に多くの質問がされていました。グリーンアノールのような明確な対策が現状見つかっておらず、未侵入地域に拡げないことしかできないというのはなんとももどかしいものです。

シンポジウムが終わると、会場の上階で懇親会です。多くの料理が準備されており、部屋に入る前からいい匂いがしていました。乾杯の前に学生発表賞の授賞式があったのですが、大変光栄な事に、学生発表賞を受賞させていただきました。多様な分野の発表でそれぞれ独自の強みがあり、どの発表も選ばれる理由があると感じていたため、自分が選ばれたと聞いたときは非常に嬉しかったです。懇親会では、若手研究者からベテランの先生まで、様々な方とお話することができました。一昨年は学会発表ができず、懇親会では知り合いとのみ話していたため、発表による自身の研究アピールの効力を強く感じました。クモ研究を行う私の所属研究室の後輩にも、学会発表へのチャレンジを勧めていきたいと思います。

2 日目

2 日目は、午前中の一般講演のみのプログラムでした。1 題目は、昨日もシンポジウムで発表された鈴木さんによる徳島県で新しく得られたヤミサラグモのお話で、特徴的な外雌器開口部と触肢 *paracymbium* を進化させた、鍵と錠の関係を説明するためモデルとなりうる存在だという話に非常にワクワクしました。続いて、小野さんによる小笠原諸島南硫黄島で得られたクモのお話では、人の立ち入りが制限されている秘境であるのに対し、クモ相が貧弱であったというのが驚きでした。富田さんによる、

クモをサーモグラフィーで観察したお話では、事例の少ない貴重な映像を見せていただきました。桑田さんによるトタテグモ類の食べかす・排泄の解説では、地中性クモたちの行動の多様さや、その共通点から行動進化の流れの考察につなげる研究展開に感服しました。田中一裕さんによるコアシダカグモのアクトグラフのお話では、生物の体内時計周期の最短も最長もクモが記録しているという、自分の知らなかった研究分野におけるクモのポテンシャルの高さに驚きました。新海明さんによるイソウロウグモ類の採餌法のお話では、多くのバリエーションがある餌盗みやクモ食いの、それぞれの採餌戦略の進化過程が非常に気になりました。中田さんによる、円網の不規則部分の発生原因の解明のお話では、私が見た記憶があっても注目してこなかった現象を、根気強い観察により何が起きているのか解き明かしていて、大先生の視点の凄さを感じました。最後の講演である、中村さんの人工クモ糸産業のお話では、**Spiber** 株式会社での最近の取り組みが解説されました。クモ屋としても、クモ糸製品は一つくらい持っておきたいと感じており、今後の開発が楽しみです。

全講演が終了し閉会の挨拶があった後も、多くの人たちが自然と集まり、それぞれでクモ談義に花を咲かせていました。一年に一度の学会大会で、自分もまだまだ話し足りないことばかりでした。来年も同じように皆さまとお会いできるのを楽しみにしています。

おわりに

最後に、加藤大会長をはじめとする、今大会の運営に携わった皆様に感謝申し上げます。来年度は、高須賀圭三先生主催のもと九州大学で開催されます。福岡での大会は 56 年ぶりとな

りますので、ぜひお越しください！

(九州大学システム生命科学府

生態科学研究室 一貫制博士課程 1 年)

採集情報

日本各地で採集された稀産種や、都道府県初記録、島初記録、南限更新、北限更新など分布上の重要情報について掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

【このコーナーに掲載する記録は、証拠標本か、同定のキーとなる特徴がはっきりと撮影されている写真かのどちらかがあるものに限りさせていただきます。目撃談のみのものにつきましては取り上げません。また、幼体の記録についてはいろいろと議論のあるところですが、とりあえず現段階では、投稿があれば参考記録として掲載を継続させていただきます。しかし、**幼体での記録は誤同定の危険が大きいですので、可能な限り避けてください。**】

クリチャササグモ 山形県山形市飯塚口 (38.2555N 140.3071E) 2025 年 7 月 1 日 1♀
新谷花梨採集・同定 谷川明男確認

キノボリトタテグモ 長野県阿南市阿南八幡 (35.363877N 137.792721E) 2025 年 6 月 19 日
1y 谷川明男採集・同定 (DNA バーコーディングによる)

カネコトタテグモ 宮城県白石市大平森合 (37.995349N 140.602578E) 2025 年 7 月 18 日
1y; 宮城県仙台市泉区福岡 (38.346892N 140.747457E) 2025 年 7 月 18 日 3y; 秋田県

湯沢市駒形町 (39.171447N 140.592074E)
2025 年 7 月 17 日 1y 谷川明男採集・同定 (いずれも DNA バーコーディングによる)

遊絲 55 号掲載の福島県産エチゴヤマヤチグモの記録は誤同定の可能性があるので削除します (松田まゆみ)

(新海 明・谷川明男集約)

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp (谷川明男) まで

遊絲の発行は、年 2 回 (5 月, 11 月) の予定。
投稿締切は発行月の前月末日 (4 月末と 10 月末) です。

日本蜘蛛学会

homepage : <http://www.arachnology.jp/>

Atypus 閲覧のパスワードは

会費の納入、住所変更などは会員マイページでのご操作をお願いいたします。

年会費 正会員 7000 円 (学生は 3500 円)

会長・幹事

会長：中田 兼介

庶務幹事：桑田(楠瀬) 隆生 繁宮 悠介

会計幹事：高田 まゆら

編集幹事：鈴木 佑弥

図書幹事：原口 岳 h1r1g3ch2+at+gmail.com

遊絲 第 57 号

2025 年 11 月 22 日発行

編集者 新海 明, 谷川明男

発行者 日本蜘蛛学会 会長 中田兼介
